

シュートが1本入ることに  
感じるうれしさが僕のすべて

バスケットボールとの出会いは、いわば「自然の流れ」だった。高校時代に部活動で汗を流し、自宅に「ゴールを設置するほど」バスケットが大好きな父。その影響で、竹本選手の兄・義希さんは、保育園児の頃から「知立ミニバスケットボール教室」に通い始めた。「バスケットに特別興味があったわけではなかった」という竹本選手だが、体を動かすことが大好きで、「歳年上の兄が教室に通う姿を見るうちに、気づけば小学1年生から教室に入っていたという。

知立ミニバスケットボール教室は、竹本選手が通い始めた頃は、地区大会で上位を狙えるほどではなかった。そのため、「もっと強いチームで頑張りたい」という兄・義希さんの意向に沿う形で、当時小学2年生だった竹本選手も「名古屋イーストミニバスケットボールクラブ」へと移籍した。さらに高いレベルを目指し、新たな環境で練習に励むことになったのだが、予想外の軌跡をたどることになった。「小学3年生の頃に、実はバスケット



いけば結果は出るはず」

を一度やめているんですよ。新たなクラブで待っていた厳しい練習は、「シュートが1本入る」ことに感じるうれしさが僕のすべて。楽しいから続けてきた」という竹本選手にとって、いざさか窮屈だったのかも知れない。当時のミニバスのコーチから叱咤を受けることに、徐々にバスケットが嫌になっていく。兄が再び別のチームへ移籍するのを機に、竹本選手は「バスケットをやめる」という決断を下した。



巻頭特集

あくなき情熱と無限の可能性 シーホース三河U15

# 竹本雅矢選手

Bリーグ西地区で常に上位争いを繰り広げるプロバスケットボールチーム「シーホース三河」。そのU15チームに所属する竹本雅矢選手は、愛知県U14育成センター(DC)に選抜されたほか、「B.LEAGUE U18 REGIONAL LEAGUE 2021」でもU15特別飛び級制度を利用して大活躍。将来を囑望される期待のホープに、これまでの軌跡と今後の夢について語ってもらった。

運動自体が好きだった竹本選手は、「バスケット以外もやってみよう」とサッカーを始めた。ただ、思うようにプレーできない。野球にも興味があつたが、始める前から「自分には向いていない」と断念した。気付けばスポーツをするのは、週1回、父が主催していた子ども向けのバスケット教室のみになっていた。「やっぱり自分に向いているのはバスケットしかない」。離れてみたからこそ感じた、正直な思いだった。そんな竹本選手に、再び転機が訪れる。小学4年生の秋のことだ。「もう一回、本格的にバスケットをやってみない?」。知立ミニバスケットボール教室に通う知人からの誘いだった。

「目の前のことを一つひとつ頑張っ

て」頃は負けが先行していたものの、6年生になると主力メンバーとしてチームを牽引。西三河大会を突破し、県大会へと駒を進めた。「結局、県大会は一回戦で負けましたけどね」と笑顔を見せるが、自分のプレーに自信を深めた竹本選手は、兄の勧めでシーホース三河U15のトライアウトに挑戦。暗れて合格し、シーホース三河U15の一員となる。シーホース三河U15の伊良部勝志ヘッドコーチのもと、ぐんぐんと成長。できないプレーは根気強く接して改善し、成功したプレーを褒めて伸ばす指導が彼を急速に伸ばした。急成長した竹本選手は、今年6月26・27日に開催された「B.LEAGUE U18 REGIONAL LEAGUE 2021」に、U15の登録でありながら特別飛び級制度でU18にエントリーされた。中地区4チームが1回戦総当たりで試合を行うリーグ

戦で全試合スタメン出場を果たし、チーム2位の得点を挙げるなど、チームを全勝で1位へと導いた立役者として大車輪の活躍を見せた。すでに将来を囑望された存在の竹本選手だが、本人は「冷めた。僕はあまり遠い将来は考えません。まずは近い将来の目標を一つずつ積み重ね、そこから徐々に上を目指していきたい」。プロになるという夢に向け、階段を一段ずつ踏みしめるように登っていく。最後に、地元の人たちへのメッセージをお願いと、同世代に向けた力強いエールが返ってきた。「目の前のことを一つひとつ頑張っていけば、結果は出るはず。最初から結果を求めすぎず、今やるべきことを全力でやり抜くことが大事だと思います。新型コロナウイルスの影響で大変なことが多いですが、一緒に頑張っていきましょう！」



シーホース三河の最新情報はこちら



10.9 [SAT] 10 [SUN] at ウイングアリーナ刈谷  
VS. 琉球ゴールデンキングス



5.シーホース三河U15の集合写真。主カメンパーとしてチームを牽引するほか、飛び級制度を活用してU18でも活躍を続けている(前列左から4番目が竹本選手)



1.身長184cmの恵まれた体格を生かした力強いプレーが持ち味。オフェンスリバウンドを武器にチームを引っ張る  
2.さまざまなチームに所属していた小学生時代。他の競技なども経験する中で改めてバスケットの魅力に気づいたという  
3.竹本選手は4きょうだいの次男。兄と共にシーホース三河U15に所属。一番上の姉は陸上選手、三男の弟はサッカー選手として活躍している  
4.歩き始めて間もない頃の竹本選手。物心つく前から自宅に設けられた子供向けのバスケットゴールで遊んでいた



profile  
竹本雅矢

■背番号:23 ■ポジション:G-F

2006年7月23日生まれ、知立市出身。知立市立竜北中学校3年生。身長184cm、体重73kgのフィジカルを生かしたダイナミックなプレーが特長。「何より力強いバスケットが持ち味です。試合をご覧いただく際はぜひそのあたりに注目してほしいですね!」

#23